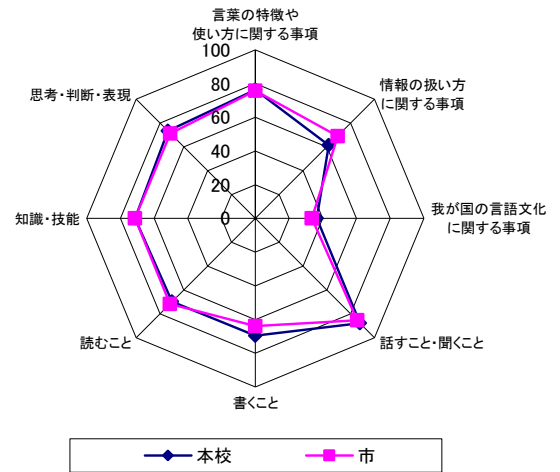


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	76.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	61.5	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	36.5	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	87.8	85.5	86.5
	書くこと	69.6	63.9	65.8
	読むこと	69.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	71.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	73.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

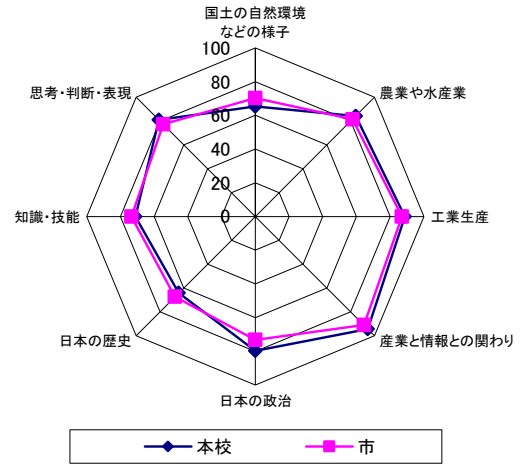
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.5ポイント上回った。</p> <p>○6学年、5学年に配当されている漢字は正しく読んだり、書いたりすることができている。</p> <p>○三字の熟語の成り立ちについて、概ね理解している。</p> <p>●文と文との接続の関係の理解は市の平均を4.7ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○今後の指導の重点</p> <p>・文脈に即した正しい接続語の習熟を図るため、接続語の役割を意識して文をつなぐ短文作成などの活動を継続して行う。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて7.6ポイント下回った。</p> <p>●原因と結果など情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題は、市の平均から7.6ポイント下回った。二つの情報を見比べ、簡単に文章に整理することに課題が見られる。</p>	<p>・複数の情報を整理する力を高めるため、国語科だけでなく他教科の学習においても、必要な情報を取捨選択し、目的に応じて簡潔に要約する活動を繰り返し行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3.0ポイント上回った。</p> <p>○熟語の成り立ちについて関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。</p>	<p>・言葉への関心をさらに高めるため、身の回りの言葉の由来や、和語・漢語・外来語の使われ方の違いについて、自分たちの生活と結び付けて考える学習を今後も取り入れる。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2.3ポイント上回った。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容の中心を捉える問題は、市の平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>○聞きたいことの意図に応じて、質問を工夫することができている。</p>	<p>・話の中心を捉える力を維持するため、スピーチや発表を聞く際に、話し手の意図や要点をメモする活動を日常的に行う。</p> <p>・目的に応じた質問力を定着させるため、グループ学習などで互いの考えを深め合う対話の場を意図的に設定する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて5.7ポイント上回った。</p> <p>○文章全体の構成や展開を考え、2段落構成で書く問題は、市の平均を20.7ポイント大幅に上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて書くことを選び、伝えたいことを明確にし、目的に応じて文章を簡単に書く問題に課題が見られる。</p>	<p>・論理的な文章構成の指導は継続しつつ、相手や目的に応じて内容を厳選する力を養う。</p> <p>・伝えたいことの中心を明確にするため、目的を明確にして、指定された文字数や条件に合わせて情報を整理し、簡潔に表現する推敲の活動を充実させる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて1.7ポイント下回った。</p> <p>○説明文において文章全体の構成を捉える問題は、市の平均を13.4ポイント大幅に上回った。</p> <p>●物語の全体像を具体的に想像することに課題が見られる。</p>	<p>・物語の全体像を捉えるため、登場人物の心情の変化や情景描写に着目させ、叙述をもとに場面の様子を具体的に想像しながら読み進める指導の工夫を行う。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.3	70.3	66.4
	農業や水産業	84.3	81.6	75.3
	工業生産	88.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	94.3	91.0	81.3
	日本の政治	79.7	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	64.2	67.4	68.5
	知識・技能	71.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	80.9	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

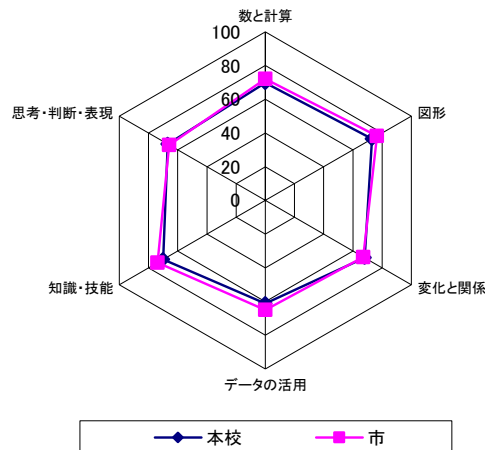
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べ5ポイント下回っている。 ●日本の周辺の海洋名を答える問題については、市の平均を11.1ポイント下回っていて、地理的知識の理解に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「太平洋」「赤道」「季節風」など、日本を取り巻く環境に関わる基本的な語句を復習する。ただ語句を復習するだけでなく、実感を伴った理解ができるよう、季節の変化など生活を振り返りながら学習を進める。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べ2.7ポイント上回っている。 ○米の品種改良についての理解をもとに資料を読み取る問題では、市の平均を7.3ポイント上回っていて、資料から読み取り答えを導くことができていた。	・5年で学習した「米づくりのさかんな地域」では、市の平均を上回った。今後も、米の生産の工程について復習を続ける。 ・日本の水産業では、新鮮な魚が私たちの食卓に届くまでの工程を確認し、水産業に関わる人々の工夫を確認することで、見方・考え方を育成する。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べ1.7ポイント上回っている。 ○日本の貿易の変化について資料をもとに答える問題では、市の平均を7.5ポイント上回った。 ●日本の工業(自動車)の製造についての問題では、市の平均を1.8ポイント下回った。	・知識だけでなく自動車の製造過程について工程の理由を考えながら復習することで、社会的な見方・考え方を働かせて学習を進められるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と比べ3.3ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を3.5ポイント上回っている。インターネットを使用することの注意点についての理解できていると捉えられる。	・様々な情報が私たちの生活の中で活用されていることを知ると同時に、家庭でもインターネットを安全に楽しく使うためのルールやマナーについて、親子で話し合う場を設けるように呼び掛ける。 ・学級活動において、インターネット上での情報の発信や受信に関する注意点を正しく理解するために、事例を基に話し合うことでインターネットの正しい使い方の理解を深める。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べ6.6ポイント上回っている。 ○日本国憲法の問題では、市の平均を3.7ポイント上回っている。 ○租税の役割についての問題では市の平均を19.8ポイントと大きく上回っている。 ●資料を読み取り、法律ができるまでの流れを読み取る問題では、市の平均を0.4ポイント下回っている。	・授業の中で資料を読み取る場面を多く設ける。また、読み取った内容を自分の言葉で表現する活動を設ける。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べ3.2ポイント下回っている。 ●鎌倉幕府の問題では、市の平均を16.5ポイントと大きく下回っていて、当時の地理に関する理解に課題が見られた。当時の政治の仕組みに関する理解に課題が見られる。 ●江戸時代の問題では、市の平均を7.6ポイント下回っている。知識の定着に課題が見られた。	・時代背景や歴史的な事象が起こった要因について、年表に表し同時期に起こった出来事などを整理することで理解を深める。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.8	72.1	74.6
	図形	73.1	76.5	76.1
	変化と関係	68.1	67.1	59.7
	データの活用	61.2	65.0	64.5
観点別	知識・技能	70.0	73.8	74.7
	思考・判断・表現	66.9	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

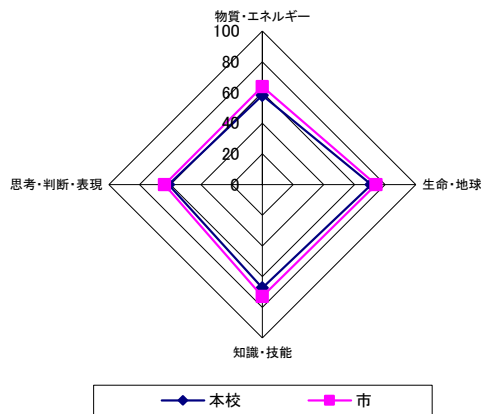
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2.3ポイント下回っている。</p> <p>○小数の乗法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、市の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>●基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める式を選ぶ問題に課題が見られた。</p>	<p>・小数や分数の加減乗除の基本的な計算の定着に向けて繰り返し練習を継続するとともに、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・図や数直線、式などを関連付けて考える力を育むために、授業の中で数量の関係を図や数直線で表す活動や図を読み取って式をつくる活動を取り入れる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3.4ポイント下回っている。</p> <p>○平行四辺形の面積を求める式を選ぶ問題では、市の平均を7.5ポイント上回った。</p> <p>●線対称な図形の対応する点を選ぶ問題や正多角形の中から点対称な図形を選ぶ問題に課題が見られた。</p>	<p>・面積や体積を求める基本的な技能の定着に向けて、基礎的な問題を繰り返し練習するとともに、児童の習熟度に応じて発展的な問題にも取り組めるようにする。</p> <p>・用語の定義への理解を促すために、授業の中で「線対称」「点対称」「対称の軸」「対称の中心」などの用語を繰り返し確認する活動を取り入れる。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均と比べて1ポイント上回っている。</p> <p>○速さと時間から、道のりを求める問題では、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●どちらのノートが安いのか、1冊あたりの値段を求めて説明する問題で課題が見られる。</p>	<p>・考えを表現する力を育むために、授業の中で自分の考えを図や式、言葉で説明する活動を取り入れる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3.8ポイント下回っている。</p> <p>○値に0がある分離量の平均を求める問題では、市の平均を4ポイント上回っている。</p> <p>●円グラフを正しく読み取る問題に課題が見られる。</p>	<p>・割合についての理解を促すため、授業の中で繰り返し復習する時間を取るとともに、社会等の他教科でも円グラフや帯グラフから読み取る活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.1	63.8	61.6
	生命・地球	71.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	67.4	73.0	71.3
	思考・判断・表現	61.1	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均と比べて5.7ポイント下回っている。</p> <p>○うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験方法を記述する問題では、市の平均を11ポイント上回っている。実験方法は1つではなくいくつかあるが、自分で選択した方法を記述できたのは、実験結果を個人でノートにまとめる活動を行った成果であると考えられる。</p> <p>●リトマス紙の反応と水溶液の液性についての問題では、市の平均を21.9ポイントと大きく下回っている。リトマス紙を使って実験を行い、結果をノートにまとめたが、実験方法やまとめ方に課題が見られた。</p>	<p>・実生活において身近でないことの理解が難しいため、プリント学習などで、定着を図る。</p> <p>・グループ実験を行う際、予想を立て、結果から考察したり、自分の言葉でまとめた上で、クラス全体でまとめながら確認するなどの授業の展開を行い、知識の定着に繋げる。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均と比べて5.6ポイント下回っている。</p> <p>○食物連鎖とは、どのような関係にあるものかを問う問題では、市の平均を11.2ポイント上回っている。日頃食べている物を具体的に挙げたり、調べ学習をしたりする活動を行った成果であると考えられる。</p> <p>●月、太陽、地球の位置関係と、月の見える形について答える問題では、市の平均を17.8ポイントと大きく下回っている。個人で実験を行ったが、知識の定着に課題が見られた。</p>	<p>・学校で生活している時間内にも月を観察することができるので、折にふれ太陽と月の位置関係を話題にし、理解に繋げる。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、どの授業においてもねらいを明確にし、「はっきり！じっくり！すっきり！」を合言葉に、課題をはっきり理解し、課題解決にじっくり取り組み、学んだことをすっきり納得できるような指導を行っている。	・1・2年生の「ペンキょうをして、いろいろなことがわかったり、できるようになったりすることはうれしいですか。」と、3～6年生の「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合は、平均して約93%である。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い直し、目的に応じた1人1台端末の活用など、児童が多様な方法を選択し、組み合わせながら、粘り強く主体的に学習に取り組むことができる授業改善を行っている。	・3～6年生の「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」の肯定割合は、平均して約83%である。 ・1～6年生の「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合は、平均して約83%である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今年度も「宇都宮モデル」を活用し、授業づくりを進めてきた。学校全体の平均で、「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合が9割を超えることから、学んだことをすっきり納得し、実感できている場面が多いことが伺える。次年度も、継続して「宇都宮モデル」を意識した授業づくりをしていくことで、児童が見通しをもって取り組むことができるようにする。

・「書く力」を伸ばすために、教科に関わらず「書きたいむ！」の時間を設け、書くことの有用性を感じられるような取組を行う。また、自分の考えを根拠をあげながら話すことができるように、書く目的を共有したり、書く内容の観点を提示したりして、それをもとに話すなど、言語活動につながりをもたせていく。